



南三陸なうな人

【阿部博之さん】

自然に生かされた米が  
地域に輝きをもたらす

「震災のときは米と水に助けられた。自然に生かされているんだなって実感したんです」と阿部さんは話す。

懸命のリハビリの末、春の田植  
えに間に合わせた。しかも、さら  
なる挑戦を胸に田んぼへと戻つて  
きた。それは、これまで行つてき  
た無農薬での栽培に加え、無肥料  
での米栽培への挑戦だ。

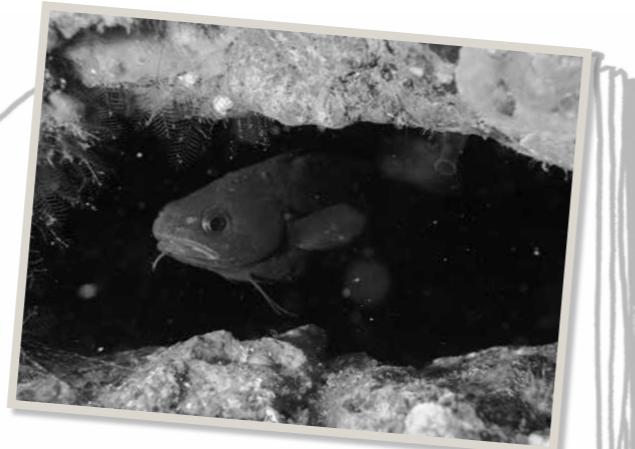
「震災後、町が進める持続可能な  
町づくりに向けて、できる限り自  
然に寄り添うかたちで農業を行  
たいと思っていたのです。そして  
それが米の価値を高めることにつ  
ながる、と」

カエルや、クモがいて、トンボ  
が舞う阿部さんの田んぼ。自然の  
恵みに生かされ、しっかりと根を  
張り、天候不順にも負けず黄金色  
に輝く稻穂。さまざまな想いが凝  
縮した稻穂が、いよいよ収穫の時  
を迎えている。

南三陸なう

検索

阿部さんをもっと詳しく知りたい人は、南三陸公式ブログ「南三陸なう」をご覧ください。



## ネイチャーセンター準備室だより 「どんこの季節」

海底で潜水調査をしていると、岩の割れ目からそっと顔を出している魚と目が合うことがあります。どんこは、そんな魚の代表格で、割れ目をのぞきこむとすぐに奥に隠れてしまう恥ずかしがり屋です。実は「どんこ」という名は地方名で、標準和名は「エゾイソアイナメ」です。夜に活発に動き回るので、夜釣りをしたことがある人なら、きっと顔見知りの魚ではないでしょうか。

どんこの生態は長い間よく分かっておらず、お腹に卵を持った成熟した雌を誰も見たことがない不思議な魚でした。ところが、近年、深海に生息しているチゴダラという魚と同じ種であることが

分かりました。きっと、小さく若いものが沿岸で暮らしていて、成長に伴って深みへ生活の場を移してから成熟するのでしょうか。

どんこの顔をよく見るとアゴに立派なひげが生えていて、タラの仲間であることが分かります。焼き物や煮物、汁物が好まれるおいしい魚です。この秋、ぜひご賞味してみては。

農林水産課 ネイチャーセンター準備室 ☎25-9703

★★★★★

## 復興を願う花火、高々と

8月26日(土)、志津川湾かがり火まつり福興市が開催され、今回で3回目となる三河手筒花火が披露されました。

三河手筒花火は、震災後、愛知県新城市から派遣で本町に来ていただいた職員の皆さんを中心となつて打ち上げられています。炎は、大きいもので20メートルほどの高さに吹き上がり、その間、筒を持つ人は頭から火の粉を浴び続けます。今年度、環境対策課へ派遣されている林俊太さんは、「この花火で、少しでも皆さんに元気や勇気を与えられたらと思う。そして、震災を忘れず、南三陸町と新城市が共に発展してほしい。そういう思いで打ち上げた」と熱い気持ちを語ってくれました。

みな  
レポ

## ミキサー車で消火用水を支援

8月28日(月)、気仙沼地区生コンクリート協同組合と町とが「災害時における消火用水運搬等協力に関する協定」を締結しました。

この協定は、火災発生時にコンクリートミキサー車で消火用水の運搬のほか、災害時に使用する土のうに生コン製造で使用している砂の提供をしていただくものです。

今回の協定締結により、山間部など、防火水槽や消火栓のない地区への消防水利の確保などにつながり、災害に強い南三陸町の実現に向け期待が寄せられます。

## 役場完成見学会を開催

東日本大震災で被災した役場本庁舎が完成を迎え、9月4日(月)から業務を開始しました。

この、新しくなった役場庁舎を住民の皆さんに見学していただき、9月10日(日)に完成見学会を開催しました。

新庁舎に対する皆さんの関心は高く、当日は、子どもから高齢者までの約260人が参加しました。参加者らは、担当者からの説明に熱心に耳を傾けたり、庁舎に多く使用されている南三陸杉を手で触れたりしていました。

参加した一人、高見郷子さんは、「立派な庁舎が建つてよかったです。町長さんや副町長さんの椅子がとても気持ちよかったです」と感想を話してくれました。

03

広報 南さんりく 02